

◆ 新収蔵資料紹介（令和6年度9月）展示解説シート ◆

# 夜間中学の教師が手元に残した先人の思い出 ～漢詩集～

会期：令和6年9月5日(木)～9月30日(月)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年3月26日付けで本市が寄贈を受けた荒巻家資料のなかから、荒巻龍（1899～1977）が所有した「漢詩集」を初公開します。龍は、久留米の夜間中学として初めて設立された皇道館（現福岡県立明善高等学校定時制）の教師を務め、主に漢学や日本文学を研究しました。

漢詩集は、龍が自身の教育・研究過程で収集した蔵書の一つです。内容は、県立中学明善校（現福岡県立明善高等学校）の基礎を築いた新興教育者・後藤謙が80歳を迎えたことを祝うもので、龍にとっては、青少年教育に尽力した先人に関する資料でした。

## ●荒巻龍と後藤謙

【荒巻龍】明治32年（1899）、白山町に出生。昭和8年（1933）から皇道館の教師を務めた。皇道館が、福岡県久留米夜間中学（県立中学明善校に併置）から福岡県立明善高等学校定時制へと発展する中で、一貫して勤労青少年教育に尽力した。昭和52年（1977）没、享年77。

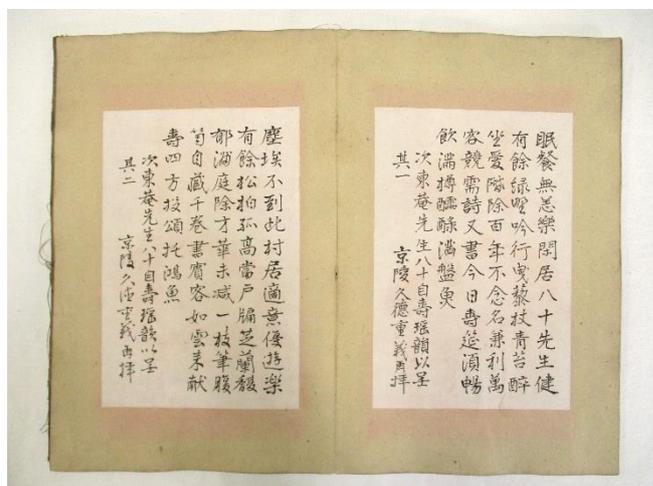
【後藤謙】天保8年（1837）、庄島（莊島）に出生。藩校明善堂の講釈方を務め、明善堂が明善小学になった際は初代校長に任じられた。明治22年（1889）に県立久留米尋常中学校が設立されると、初代校長となり、施設の新設、拡張を行って県立中学明善校の基礎を築いた。大正6年（1917）没、享年81。

## ●漢詩集 大正5年（1916）

大正5年、後藤謙（号：東庵）80歳を祝し、謙の門下生約300名による賀宴が催されました。本資料は、賀宴開催に伴って制作された詩や絵を集めたもので、謙と同じく青少年教育に携わった龍の手に残されました。詩集には、篠山小学校初代校長・宇高宣光、同校二代校長久徳重義ら16名が詩を、2名が木や山の水墨画を寄せています。



右側が宇高宣光の詩。



久徳重義の詩。其一と其二がある。